

全公教佐賀大会第1回運営委員会

令和2年6月16日(火) 16:00～
グランデはがくれ 脊振の間
進行(吉田副委員長)

1 開会(岩崎副委員長)

2 挨拶(小川実行委員長)

3 提案・協議

(1) 佐賀大会の予算について(提案:事務局)

資料1

(2) 滋賀大会視察・滋賀大会引継会視察・岡山大会提言者研修会視察の報告
(事務局より)

資料2～4

(3) 今後の各部・各班の主な業務スケジュールについて

資料5

(3) 各部の進捗について

4 その他(事務局より)

・第3回運営委員会 7月14日(火) 15:00～

5 閉会(西村副委員長)

第61回 全国公立学校教頭会研究大会滋賀大会の視察報告

報告者 古館 洋治

- ① 大会当日・編集までのスケジュール・行程表（週単位で）が必要。
- ② 役割分担表を令和元年度で一度名前を入れて人数等を確認する。R2とR3は入れ替えて済ませるようにはできないか。
- ③ 各役割の仕事内容を箇条書きでまとめたものを準備する。滋賀大会でも存在するのではないかとデータを譲っていただく。
- ④ 当日のシャトルバス⇒台数・発着場所の確保。同時に3台くらいは止められるスペースが必要。
- ⑤ 国旗と教頭会旗の位置 ※浜松の全校大会では3つあった。
- ⑥ ステージ上のお花の大きさ⇒滋賀大会は小さかった。
- ⑦ 司会の分担をどの程度行うか？細かく変わるのもマイナスではないか。総合司会がいて…。
- ⑧ バスへの誘導係など外での役割の先生方の健康不安がある。
- ⑨ 分科会の司会は、基本1年目教頭が担当のようでした。当日は机の上に置かれた封筒の中にある進行表に沿って流していただくとのこと。分科会の司会であれば同様にしていきたいと思います。
- ⑩ お土産コーナーには、宅配サービスのコーナーも必要ではないか。
- ⑪ お土産を購入する時間帯は、開会行事前後・分科会昼休み・閉会行事前後が多いと考える。その時間帯にお土産を充実させてはどうか。
- ⑫ DVDなど来場者が視聴できるものは県や市の観光課に問い合わせる。
- ⑬ アトラクションの時間もざわざわ来場中に行うのはどうかと思った。
- ⑭ アトラクションの候補は…
 - ア 佐賀女子新体操 イ 神埼清明新体操 ←たぶんインターハイのため不可能
 - ウ 各地区の太鼓(佐賀・吉野ヶ里など)
 - エ 吉野ヶ里バンブー
 - オ お祭りの踊り(面浮流・天突く舞など)
 - カ はなわミニコンサート
- ⑮ シンポジウムは、パネラーも重要だが、コーディネーターで善し悪しが決まるように思われる。人選には要注意。
- ⑯ 分科会 特Ⅰと特Ⅱについてはどのようなになるか。
- ⑰ 分科会指導助言者の確保。
- ⑱ 記念講演の候補は…
 - ア 渡邊耕一さん(Cygames(サイゲームス)代表取締役社長)
 - イ 中島 潔さん(画家)
 - ウ 針 すなおさん(マンガ家)
 - エ 内山 俊哉さん(NHK福岡放送局)
 - オ 孫 正義さん(ソフトバンク)
 - カ 本村健太郎(弁護士・俳優・タレント)
- ⑲ 大会のまとめはどのようにするか。
- ⑳ 大会に向けての集まりを最小限にするためには、データのやり取りを工夫する必要がある。
- ㉑ 佐賀大会は車で参加者も多いと考えられるので、駐車場の確保と係・役員の先生方の駐車場の確保も必要。

打ち合わせ

- ・立ったままで、少し雑然とした印象だった。説明者から遠い人には、説明や指示が伝わっていない感じがしました。
- ・直前の打ち合わせなので、伝達事項は絞る。変更点や重要事項で強調したいことなど。
全大会
- ・会場が寒かった。

シンポジウム

- ・シンポジウムが、大会との関連が弱いように感じた。
- ・シンポジストには、大会の趣旨や研究の主題に関連付けて進行するように、念を押してお願いをしておくこと。関連付けが弱かったように思った。

分科会について

- ・グループ内で、発表者が決まっていなかった。メリットもデメリットもあると思うが、意図的な抽出をねらったものと思われる。
- ・休憩の回数が少なく、参加者の大半が疲れ気味のような感じだった。休憩のとき、トイレがたいへん混雑しており、男性トイレでも目的を達せられなかった人もいると思う。
- ・協議が、協議の柱からそれてしまうことが多かった。そもそも提言内容が、3Cの視点によるまとめが弱かったことが大きな理由の一つだと思う。大会当日では、内容を変更することはできないので、司会者が3つの視点、協議の柱に関連付けて協議を仕組むことが求められる。
- ・提言内容について、各市郡で研究を進める前に、研究の主題、3つの視点の周知を徹底し、実践、原稿作成にあたってもらう。

大会PR

- ・県の観光課に依頼して、最新版のPVを貸してもらう。

①	実行委員会合同打合せ	①膨大な量の資料整理の作業に驚いたが、佐賀大会は業者依頼 ①各部の部長が仕事の内容・方法について十分に把握し、各部が自立的に準備を進めていた ①岡山、佐賀のように、視察を兼ねている参加者にも丁寧に説明をいただいた(マニュアル・荷物…) ②イスや照明、映像機器等はホテルの方を中心に行われていた ②開閉会式、シンポジウム、研究のまとめ、記念講演リハ等、マニュアルをもとに進められた ②アトラクションと映像、進め方について確認がなされた ②報告の仕方については時間短縮のために、発表者と次の発表者の礼を揃えることを確認された ②大会主題や演題の大きさが気になったが、翌日朝には交換されていた ③分科会場設営・リハは翌日に行われるとのことで見送った ④昨日行われた内容・方法等について最終チェック。細かい部分の修正・確認が行われた ④受付・座席ともに、地域ごとに設置。会場からの運搬も混乱を避けるため、地域ごとにアナウンス ④大津駅構内、バス乗り場等、各所に案内係が配置されていた ④大型バスとともに、ホテルのシャトルバスも運行していた。(シャトルバス10台?) ④看板及び、掲示等は写真記録参照
②	全体会場設営・リハ	⑤DVD放映 佐賀にもあったような気がした ⑤受付中にアトラクションが始まる 滋賀のテーマや最終日の講演とは合っていると思った ⑤国家斉唱の際、指揮者が立たれた 必要だろうか… ⑤祝辞の代読が目立った 残念 ⑥教職員生進福社財団の方の話には引き込まれた。 ⑥シンポジウムは、主題とシンポジスト、コーディネーターの関わり、つながりについて熟考が必要 ⑥各シンポジストが話される際、映像やスライドを用いていた タイミング、画面切り替えも要打合せ ⑦進行マニュアルをもとに、分科会ごとの打合せが行われた(席札・マニュアル等の準備物) ⑧前日受付をしても、受付をするように促された。この日からの参加者には資料配付 ⑧教育課程に関する課題について、福島・滋賀の提案をもとに8名で協議 司会者(開催味)の力量が問われる ⑧弁当の満足度について開催費は気をもんでいたように感じた 特産・名産・味を揃えた佐賀弁当の準備? ⑧ひとつの提案について80分の協議 人数によっては長く感じることもある ⑧報告は4グループ、各2分間程度 ⑨②でのリハ準備でスムーズに進められた ⑩主題・アトラクション・シンポジウムとの整合を感じた 美しい映像と話に引き込まれた 佐賀は… ⑪全公教会長、実行委員長の挨拶に続き、次年度開催の岡山県の挨拶も行われた ⑪岡山では佐賀が(映像・紹介・横断幕・人数…)
③	分科会場設営・リハ	⑫ホテル入り口周辺のお土産販売は盛況 全体会場付近では書籍販売 会場入り口には水の準備 ☆佐賀県のサブテーマを決定すること、シンポジウム・講演・アトラクションが決まり、佐賀大会のイメージが固まると思いました。 ☆佐賀大会と同じ規模で開催すること、会場のキヤパ、会場設営・移動・中心となる実行委員・会員数等の不安が募ります。 その不安を払拭するために、各マニュアルを早めに作成することが必要だと思えます。 ☆滋賀県の方々の準備や当日の運営の様子から、それぞれが使命感をもち責任感をもって取り組まれていることが伝わってきた。 佐賀県もハード面やソフト面と合わせて、使命感や責任感をもって実行ある大会にしていきたいと思いました。
④	開会行事直前リハ	
⑤	開会行事	
⑥	シンポジウム	
⑦	分科会運営協議会	
⑧	分科会(第1B分科会)	
⑨	研究のまとめ	
⑩	記念講演	
⑪	閉会行事	
⑫	その他	

☆佐賀県のサブテーマを決定すること、シンポジウム・講演・アトラクションが決まり、佐賀大会のイメージが固まると思いました。
 ☆佐賀大会と同じ規模で開催すること、会場のキヤパ、会場設営・移動・中心となる実行委員・会員数等の不安が募ります。
 その不安を払拭するために、各マニュアルを早めに作成することが必要だと思えます。
 ☆滋賀県の方々の準備や当日の運営の様子から、それぞれが使命感をもち責任感をもって取り組まれていることが伝わってきた。
 佐賀県もハード面やソフト面と合わせて、使命感や責任感をもって実行ある大会にしていきたいと思いました。

全国公立学校教頭会研究大会滋賀大会気づき

部会名 (法制部会) 地区名 (西松浦地区)
(有田町立 大山小学校) 氏名 (古川 恵右)

◎ アトラクションについて (法制部担当)

- * アトラクションリハーサルでは、特段の気づきはなかったが、出演者が2人というのは、とても大会運営側としては助かるのではないかと思った。その2人と打ち合わせれば良いからである。例えば、面浮立に出演してもらうとなると、団体になるはずである。そうすると、リハーサル等は団体と詰める必要がある。それは、やはり、大がかりになると考えた。出演料なども、かなり考えなければならなくなるのではないだろうか。それが、2人だと、その2人と詰めれば良いのだから、運営側としては、ありがたいと思う。
- * ビデオ視聴…滋賀県や琵琶湖についての内容だった。…佐賀県・市にも、PRビデオ等があるので、もしビデオ視聴を入れるとしても、大丈夫だと思った。
- * よし笛コンサート…レイクリードさん (今回は、女性2人での演奏だった。1人はよし笛演奏、もう1人はキーボード伴奏)
琵琶湖周辺の美しい景色を背景にして演奏された。環境面から、琵琶湖の葦の増減とその考えられる原因や、よし笛が作られるきっかけやその後の環境活動などを織り交ぜながらの、うっとりするような見事な演奏だった。
- * ビデオ視聴とよし笛コンサートを合わせて、45分くらいだった。
- * 佐賀県大会の時は、面浮立などが考えられるのではないかと周りの理事達と話した。

◎ その他について…順不同で気づきを羅列する。

- * 大会前日の、大会冊子を袋に詰める作業から視察した。さすがに、2966部という量の多さに圧倒された。袋詰め作業員は、総勢100人はいたのではないか。全滋賀県下の教頭で、かなりの数が動員されたと考えられる。
- * 電源リールが10個以上は準備されていた。…記録写真に収めた。
- * 臨時に複合機プリンタ (コピー機兼印刷機兼FAX) が、業者によって設置されていた。…記録写真に収めた。
- * 開・閉会式リハーサルでは、シンポジウム・記念講演テーマの垂れ幕が、小さくて見にくかった。…本番では、大きく直っていた。1番気になったのは、日の丸の位置である。大会テーマの左脇に配置してあった。ひな壇と天井の幅の関係で、大会テーマの上段に置けなかったのだろうかということは想像できたが、とても違和感があった。なぜなら、登壇する時に、皆、日の丸に一礼して行くのが通例だが、向かって左からの場合、わざわざ振り返って一礼するからである。見ていて、奇異に感じた。佐賀大会では、一考する必要があると思う。
- * その他、諸々のリハーサルでは、特段の気づきはなかった。
- * シンポジウムは、テーマをよほど考えなければならぬと思った。滋賀県大会のそれは、はっきり言って、面白くなかった。あまり盛り上がらなかった。会社取締役の小林さんは、コーディネーターの小林さんからいきなり話を振られて、何を発言して良いかと焦点が定まらない話をされた。児童文学作家の今関さんは、自らが高揚して、自分たちの活動を興奮して話されたが、その活動がどう価値があるのかは、私にはあまり伝わってこなかった。そんな中、文科省出身の勝山市は、学校現場をよく知っているなど思えるウィットに富んだ指摘を多くされた。このようなことから、シンポジウムの人選も、当然ながら重要だと思った。
- * 分科会は、私は、第2分科会「子どもの発達に関する課題」だった。分科会の内容については、特に問題等はなかった。それぞれ3本のレポートに対して、充実した協議が行われた。しかし、気になることが1つあった。それは、司会と記録の2人の滋賀県教頭会メンバーから、「発表者だけでなく、司会者や記録者も、テーブルに集まった全国の教頭先生から決めれば良いのに…」と、発言されたことだった。つまり、司会や記録の決まり方へ、滋賀県内教頭の中に不満があったのではないかと予想されたからである。この辺りも十分に詰めておかなければならぬと思った。

* 最後に、記念講演についてである。確かに、琵琶湖水系の美しい自然についての話は、良かったのだが、これが、これからの教頭の仕事・実践に、どう有意義につながっていくのだろうかと考えた。あまりつながらないのではないかと思った。だから、ここでも、十分に人選を考えなければならない。地元の出身者で、出席者の興味を引けて、話の内容も教頭の仕事に生かせるような方。周りの理事達と候補を挙げたが、伊万里市出身の、Cygames（サイゲームス）社の渡邊耕一社長は、どうだろうかということになった。

佐賀県は高度情報化社会への対応を目的とした、「先進的ICT利活用教育推進事業」を積極的に進めていることで知られ、専門学校などのコンピュータ・電子系の教育機関も充実している。同社はそうした環境を考慮し、2017年4月18日に佐賀県、佐賀市と進出協定を締結。同年7月に佐賀駅前1スクエアビルに「佐賀デバッグセンター」を設立し、ゲームの不具合等のチェック作業を行うデバッグ業務を中心に事業を展開した。佐賀デバッグセンターでは、2020年を目途に、現在60名の人員を120名強まで人員増加させる計画で、今後の更なる事業拡充を見込み、今回佐賀県・佐賀市と立地協定を新たに締結し、新拠点を設立する運びとなったとしている。

会社を立ち上げ、ここまで大きくするには、教頭の仕事へ示唆に富んだ内容を話して下さるのではないか。先進的ICT利活用教育の佐賀県をアピールするにもとても有効ではないか。そのようなことを話した。

以上。

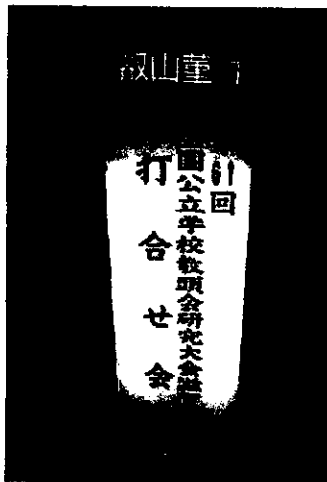
添付ファイルに、全く役に立たないかもしれないが、2日目の弁当のメニューを付けてみました。

2019年度全国公立学校教頭会研究大会滋賀大会 御席

- 一、御飯物
 - 白飯 炊込み御飯
 - 巻寿司 いなり寿司
- 一、煮物
 - 赤药药 人参 糸药药煮
 - 松茸芋 牛肉しぐれ煮
- 一、珍味
 - えび豆 鴨ロース
 - しじみ佃煮 小鮎甘露煮
- 一、天麩羅
 - 小鮎
 - 野菜かき揚げ
- 一、焼物・練り物
 - 焼鮭 出し巻卵 蒲鉾
- 一、香の物
 - 日の菜
- 一、水物
 - 地が餅

滋賀県産を多く使用しております。

1 前日



最終 打合せ

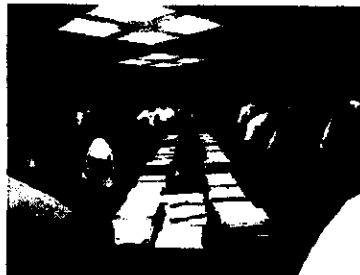


前日 役員打合せ会場

打合せ終了後



ホテルの一角を使った
部会打合わせ



配布資料の仕分け作業 (大会参加者 約2700名)



全公教と企画委員打合わせ



企画委員打合わせ会場



全体会会場 メイン看板



全体会会場 講演会 演題 (小さすぎた)



全体会会場：センターに演題。ブロックごとに中継するスクリーン配置



修正後

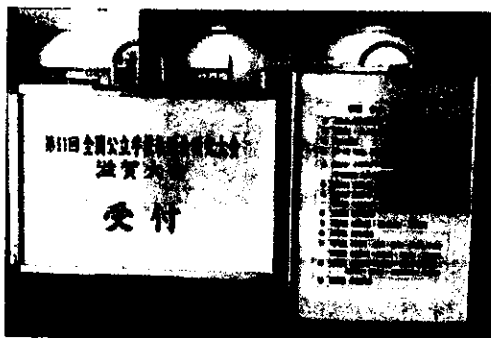


※佐賀大会では、大ホールから
中ホールへの中継？

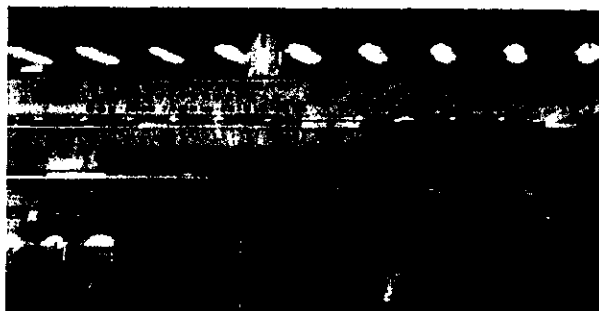


全体会レセプションリハーサル(よし笛)

2 1日目【開会行事】県 DVD 放映・アトラクション(よし 館) 【シンポジウム】

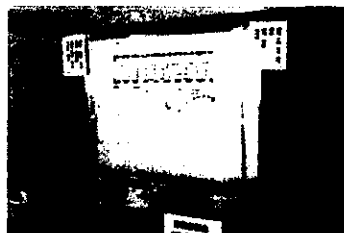


受付 (県・ブロック別) 災害の義捐金 BOX があった」



旅行会社受付 (右)

2階ギャラリーからの大会横断幕



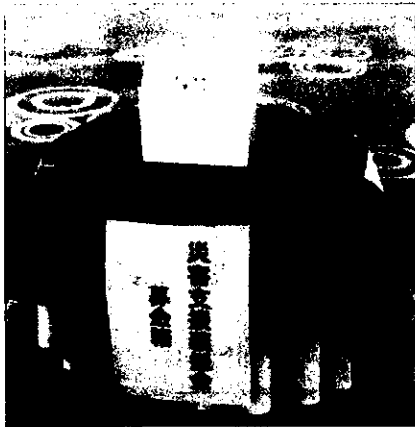
全体会会場入口 観光パンフレット



他のスクリーンへの中継用カメラ



トイレの場所表示 (多数)



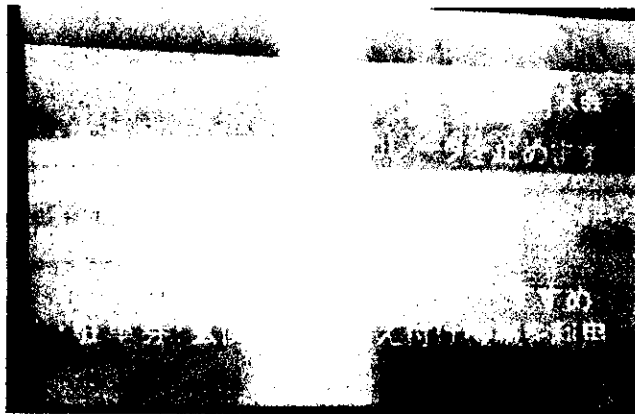
災害支援義援金箱



湯茶接待用(全体会場入口(数箇所))



コーディネーターとシンポジスト (3名)



全体会終了後のお知らせ(スクリーン表示)



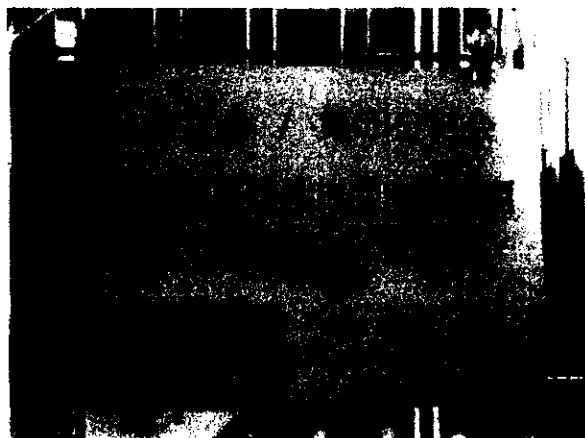
全体会終了後、分科会運営協議会 会場

※初日と最終日には、宿泊用の荷物の持込が考えられるので、
預かり所（クローク）の設置が必要。
滋賀大会では、会場のホテル（番号札の配布）が対応して
いた。

3 2日目【分科会】



分科会会場入口 看板



分科会会場案内



分科会受付



分科会会場内(グループ分け済)



分科会個人用机上名札(紙製三つ折)



分科会発表の様子(22グループ中5グループ程度—5A分科会)

4 3日目【記念講演】スライド【閉会行事】



来年度開催権の紹介と横断幕

- ※ 全体会場（大ホール）からの参会者の退出は、混雑・事故を防ぐため、地区ごと（出口に近いところ）からの退出を放送で指示。また、駅までのシャトルバス乗り場には係を数名配置し、搭乗の混雑を防ぐ。

*引き継ぎ会内容（実行委員長）小川 えま

- ① 県内の教頭が1つになること
- ② 大会開催週の校長・教頭に関係する出張、研修の事前ストップ
- ③ 教育委員会や校長会の協力を仰ぐ
- ④ 大会開催週の県内すべての教頭の動静の把握
- ⑤ 分科会(2日目)の各グループでの司会・記録の手配（滋賀大会では近畿ブロックの府県に応援依頼）
- ⑥ 各分科会での割り当て参加要請数の厳守(守っていただかないと会場が対応できない)
- ⑦ 全^公教との連絡を密に。(大会出席者の動きの確認)
- ⑧ 各控室（全公教・顧問会・指導助言者・シンポジスト・講演講師など）の調整
- ⑨ 顧問会との連絡を密に。(前日からを含めた動きなど。)
- ⑩ 提言者 ↔ 助言者（とくに顧問会の助言者）の連絡を密に。(提言原稿、資料、プレゼンテーションについて、常に最新版のやり取りを。)
- ⑪ 分科会会場のPC、プロジェクターの手配や前日・当日の準備や動作確認。
- ⑫ 会場スタッフとの連携を密に。
トイレ、休憩を取らない（混雑する）

第61回 滋賀大会

○大会案内・大会要項に関する業務

【大会案内】

- ① 一次案内：(10月末) 発送作業 → 担当のみ(15名)・・・1日かかる
- ② 二次案内：(2月) 発送作業 → 人を集めて作業・・・市町ごとに2万8千部

【大会要項】

- ① 大会要項：(5月まで) 骨子 → 原稿依頼等はメールでやり取り
「2千8百部の納品は会場へ直接」

編集係

【研究集録】

- ① 分科会提言の形式設定
- ② 分科会提言の提出依頼・・・原稿は、分担して個人責任でのチェック
 - ・2人組で分科会ごとの写真と提言のまとめ
 - ・各分科会に担当者2名を配置(大会の記録係の記載はあてにならない)
 - ・パソコンは持参して、直接入力として省力化を図った。
 - ・分科会ごとにICレコーダーを準備。実際には、メモから原稿おこしをした。

【シンボルマーク作成】

- ① 美術担当の教頭に依頼

第62回 岡山大会

【大会案内】

- ① 一次案内 → 業者へ
- ② 二次案内 → 業者へ
大会要項も可能な限り業者へ

☆ 大会中の写真も業者へ

予算上可能なことは、

編集部

○大会集録・分科会記録・ホームページに関する業務

【大会集録】

- ① 開閉会行事・全大会 → 写真を趣味にしている教頭に依頼(1、3日目)
- ② 写真、分科会記録 → 夏休み中にまとめる

広報係

【ホームページ】

- ①

滋賀県は、左記のように「編集係」と「広報係」にわかれての業務。
 会員数が少ない佐賀では、業務内容を精選・簡略化し、業者委託を増やして対応しないと困難な印象を受けた。
 岡山県もできるだけ業者委託とのことなので、岡山の対応が参考になると思われる。

令和元年度全国公立学校教頭会研究大会引継打合せ（報告）・・・**会場担当**、馬場

- 1 日時 令和元年10月18日（金）14:00～17:00
- 2 会場 都市センターホテル 東京都千代田区
- 3 参加者 全国公立学校教頭会担当役員・滋賀大会実行委員会・岡山大会実行委員会
佐賀大会実行委員会 計45名
- 4 引継会 全体会（滋賀大会・岡山大会の概要・質疑応答 等）
部署（係り）ごとに分かれて打合せ・・・資料：引継会資料

部署・・・総務部・**会場担当**・研究担当・広報担当・事務局

※佐賀県からの参加者は、上記の5つに分かれて引継会を行いました。

【会場担当】の引継会 報告（滋賀大会の報告をもとに）

1. 組織・運営及び会場部の業務

○役割分担 構成人員30名・・・会場部長1名、会場副部長2名

・会場全般係5名（うち係長1名）（会場全般の設営及び運営に関する業務）

⇒ホテル看板設置計画、ホテル内案内表示等の計画・確認

・全体会場係12名（うち係長1名）（全体会場設置及び運営に関する業務）

⇒全体会場レイアウト・設営、使用機器の手配・設営、全体会場看板垂れ幕等の計画・確認

・分科会場係10名（うち係長1名）（分科会場設営及び運営に関する業務）

⇒各会場責任者スタッフの配置、各分科会場レイアウト・設営、使用機器の手配・設営
分科会場看板垂れ幕等の計画・確認、分科会場ホテルとの連絡調整

⇒分科会…10会場（部屋） 1会場につき 会場責任者1名と会場スタッフ2名

会場責任者は会場に近い学校の教頭が担当した。…会場との折衝がしやすいように

2. 大会前日・当日の業務

【大会前日】

リハーサル参加（ステージ模様替え手順確認）

全体会場・ホテル内表示確認、受付・机等設置確認

【大会1日目（全体会）】

全体会場・ホテル内点検、表示等確認、受付・募金箱設置確認、受付・会場・座席等案内、
ステージ模様替え設営確認、分科会場PC動作確認、運営協議会会場準備

【大会2日目（分科会）】各会場にて業務（10会場に3名ずつ配置…責任者1名・スタッフ2名）

玄関看板確認、会場テーブル・表示・受付等点検確認、機器動作確認、弁当配布・回収

【大会3日目（全体会）】

全体会場・ホテル内点検、表示等確認、受付・募金箱設置確認、受付・会場・座席等案内、
ステージ模様替え設置確認

3. 反省・引き継ぎ事項

【分科会】

- グループ協議は円卓では話しづらい。要請人数を超えないように調整すべきである。
- 全公教役員・顧問会の分科会参加体制を把握しておく。会場の都合で当日に準備することが不可能であった。⇒会場図を作成する前に把握できると、当日慌てて席を用意するなどの急な対応が少なくなる。
- 提言資料の動作確認については、事前にホテル側と調整し確認できると安心である。
- 分科会場の下見については、下見の視点や報告のポイントなどについて係から様式等を示しそれによって下見を行うと効率が良い。
- 分科会場をホテルで行うことで、会場のセッティングや冷水のサービス、クローク業務等をお願いできとても助かった。
- 草津の2ホテルで行った分科会で、事務局の先生が緊急対応のために終日待機してくださりたいへん心強かった。
- ホテルの備品を使用できるとよい。PC等の持ち込みは、動作確認が必要なため、ホテルとの調整が必要である。(日程調整が難しかった) また、備品(経費)一覧があると便利である。

【全体会】

- 超横長の会場になったが、結果的に会場への出入りもスムーズになった。
- リハーサルで、シンポジストのモニターが一人ずつある方がよいと分かった。結果的に準備はできなかったが、実際にリハーサルを行う重要性を再認識した。
- ほとんどホテル側が準備・設営をしてくださったので助かった。急な変更にも対応してくださりありがたかった。(当日は、ステージ袖に部長・副部長・全体会場係長が待機し設営確認を行った。)

※ 以上、引継ぎ資料から抜粋

◇話し合いより◇

- ・分科会会場責任者10名は、会場と近い学校の教頭がよい。会場との折衝が多いので。
- ・分科会の参加人数の急な変更は対応が難しい。⇒各都道府県への要請人数を厳守しないと、会場の設営が相当難しくなる(単に椅子だけでなく、資料、弁当など様々なところに影響する)。全公教役員・顧問会の方もともと分科会人数に入っていないので、当日の動きを把握して、予備の椅子等の準備が必要。
- ・ホテルとの打ちは2か月前くらいから頻繁になった。
- ・各部との打ちは、メール等で行った。実際に集まることはできない。
- ・部長・副部長が年度で転任の場合はそのまま受け継ぐ。昇任だと代わりの方をお願いします。
- ・分科会の責任者・部長・副部長・係長はできればフリーで全体を見れるように。
- ・分科会場の下見や報告のポイントなど、リストがあると折衝しやすい。
- ・パソコン機器等の一覧や当日の設営のチェックリストなどを作成しておいたので便利だった。
- ・機器等の業者のセッティングの後は必ず確認をすること。
- ・案内板等の貼り紙もホテルですべて対応してもらった。
- ・使用機器の手配・設営の発注は事務局で行う。
- ・提言者はデータを先に送る。(当日の人もいた)

(文責：多久市立東原座舎東部校 馬場)

全公教研究大会引継会(10/18)研究部報告

報告者 日吉 政治

1 全体について

- ・全公教「研究の手引き」に従って大会が進められるよう、県内の教頭への周知を行うことで、継続性、協働性、関与性（3C）を意識した研究を進めることができた。

2 シンポジウムについて

- ・シンポジスト、コーディネーターの4人の顔合わせが開催年度4月の1回だけだったので、コーディネーターに苦勞をかけた。
- ・質問の時間を設けたが、出にくかった。事前の根回し（依頼）が必要である。

3 分科会について

○提言者研修会について

- ・開催前年度の1月実施（提言者・司会者・記録者・指導助言者等が参加）。提言内容が学校行事の紹介にならないように「教頭としてどうかかわっているのか。」を確認した。
- ・提言者研修会は、研修会や懇親会の運営、会場設営など、提言内容以外にも確認の必要があるため、前々年度の提言者研修会には、研究部だけでなく、各部長も参加した方がよかった。

○司会者・記録者について

- ・司会者・記録者については、年度が替わっても継続できそうな教頭（1年目等）を充てた。
- ・各司会者には、事前に司会マニュアルを各県の事務局に送付したが、徹底していなかったため、分科会に早めに集合するなどして説明した方がよかった。
- ・前年度から各県に司会者、記録者の依頼をしていたが、何度も変更があり、グループ編成を10回やり直した分科会があった。
→申込み後、グループが決まって（開催1か月前）から、司会や記録を依頼した方が良かったのではないか。（前年度1月の提言者研修会には参加できないが…）

○提言原稿について

- ・提言者研修会以降は、分科会司会者が連絡調整役としていたが、修正後の提言原稿等は直接事務局に提出するため、うまく機能していない分科会があった。
→分科会司会者をメールのccに入れるなどの対応が必要である。
- ・当日資料については、会場に着払いで送ってもらうため、内容について把握できなかった。

○参加者数について

- ・各県に参加要請数を依頼していたが、個人申込みの県もあるため、分科会の参加人数にばらつきが出た。会場によっては狭い会場があった、宿泊地の関係もあり変更は不可だった。
- ・分科会グループは、地域や校種が偏らないよう、8～10人を基準に編成した。

○指導助言者について

- ・全公教顧問会（校長先生）と県内指導助言者（県内の行政関係者）との役割分担が明確でなく、同じような助言になった分科会があった。
- ・各分科会の指導助言者は、行政1・校長等1の2名。行政は開催都道府県で依頼し、校長等は全公教顧問会に依頼。（研究の手引き20ページ）

○特別分科会Ⅱについて

- ・「開催地の相違を生かした課題」をテーマとする講演を2本行っていただき、教頭としてどうするかを協議の柱とした。

○次年度の岡山大会に向けて(引き継ぎ・申し送り事項)

- ◎庶務部の業務内容は、多岐にわたり、業者との連携も密にしなければならない。業者・ホテルとの連携を密にして、学校現場では対応できないことについて、できるだけ業者に対応してもらおうとよい。
- ◎庶務部員の人数にもよるが、滋賀大会では、2 日目分科会の司会に庶務部員も多数担当することになったため、分科会場でフリーに動ける庶務部員が各会場一人のみ(部長・副部长・係長)となってしまった。各会場数人の庶務部員の担当がいると、受付・弁当配布等余裕をもって対応できるであろう。
- ◎滋賀大会では、後詰め作業に庶務部員全員に集まってもらった。そのおかげで、作業は大変スムーズに進んだ。また、その後、1 日目以降の庶務部員の動きの確認を行った。シャトルバス対応、道案内、受付、分科会運営、弁当配布等の内容についてそれぞれの担当から説明し、確認してもらった。これにより、大会当日の庶務部の業務については、概ねスムーズに行っていた。後頭の日程調整や出張旅費等、余裕があるのであれば、庶務部員全員が集まれる日があるとよい。
- ◎シャトルバス運行については、旅行業者と連携して行ったが、予算面でバスの台数を減らしたことで、1 日目全大会終了後、ホテル内で長時間待つてもらうことになった。シャトルバスを利用するのなら、シャトルバスの運行距離、往復の時間をしっかりみて、余裕をもった運行ができるよう業者との連携ができるとよい。
- ◎道案内についても、各場所、庶務部員一人での対応となっていた。今回、熱中症の症状になられた方もおり、救護所で休んでもらった。今回、大部分がシャトルバスの利用をし、徒歩での移動者はほとんどなかったため、道案内が必要であったかどうかという反省も出ていた。交通機関と会場の距離・ルートによって考えていくとよい。また、救護所については、養護教諭出身の教頭があたった。
- ◎弁当については、札幌大会は栄養教諭がメニューを作成していたが、滋賀大会ではそこまではできなかった。旅行業者を通して、こちらの要望を考慮したメニューを弁当業者が作成し、数回試食を行う中でメニューを決めていった。できるだけ、滋賀県らしさを入れようとしたが、なかなか全部の要望は通らなかった。弁当配布は、札幌大会でも行ったようにグループから代表が取りに来て、回収も同じように行うことで混乱はなかった。弁当の取扱いは、旅行業者からの申し込み数から県教頭会事務局のほうで行ってもらった。各会場、5食程度多めに用意をした。最終的には、ほとんどの会場で数個ずつ余りが出ることになった。また、大会費用に弁当代が含まれていたが、1 日目だけ、3 日目だけの参加者から、弁当代は別にならないのかという声が出ていた。
- ◎受付業務は、滋賀大会では庶務部だけでなく、各部から数名ずつ人数をだして行った。概ねスムーズに対応できていたが、これも、庶務部だけで対応できる人数であれば、庶務部のみの対応でも可能である。
- ◎観光パンフレットについては、今回は、各自の袋の中には入れなかった。滋賀県では、この時期に全国規模の大会が多くあり、観光パンフの数が揃えられない状態にあったため、全体会場で平置きにすることにした。参加者は、気になるものがあると手に取り、持って帰っておられた。
- ◎土産物業者については、ホテルサイドですべて連絡をとってもらった。業者とホテルとの関係で、今回 1 日目と 3 日目のみの出店となったが、2 日目の分科会での出店があると参加者も余裕をもって土産物が買えたかもしれない。
- ◎物販ブースについては、最終、庶務部長が連絡を取り、確認し、ブースの場所については、ホテルとの対応を行った。

- 1 参加者 ・滋賀県大津市 唐崎中 山田知里雄先生
・岡山県岡山市 福田小 高山裕子先生、岡山後楽館中 佐藤成美 先生
・佐賀県杵島郡江北町 江北小 西村真二

2 引継ぎ事項

※山田先生が高山先生と佐藤先生に伝える様子を西村が見ている形態であった。
滋賀 岡山

- ・アンケートはQRコードを取り入れて回答してもらう方式にしてよかった。ただ、ペーパーの記述で回答する方もおり、担当者が一人で集約して大変だった。早めにわり役割分担をしておくべきだった。
 - ・ホテルとの連絡調整を密にすることが肝要。ホテルがすること、教頭会がすることの住み分け。
 - ・受付は当日いきなり来る人がある。対応に追われる可能性あり。心しておくべき。
 - ・開閉会式等では、司会者、プロジェクター係などを細かく割り当てていてよかった。事前の準備が研究大会をスムーズに進めるコツ。
 - ・アトラクションについては、前日リハーサルと当日リハーサルの2回実施した方がよい。専門の係を1名は割り当てる。
 - ・教育懇談会では、名札や座席表は事務局が準備した。担当する教頭と事務局のどちらがするか決めておいてよかった。
 - ・来賓接待に関してはマンツーマンでおこなってよかった。
 - ・スーツケースなどの大きい荷物を置く場所を確保しておいたほうがよい。
 - ・水分補給の場所を決めておいた方がよい。
 - ・令和元年度までにしておいた方がよいこと
- ① シンボルマークをつくる・・・ムツゴロウを題材にしたマークを作成依頼済
 - ② 記念講演の講師を決める・・・事務局が検討中
 - ③ 提言者研修会を開催する？

※PS. 杵島郡教頭会からの質問、意見

○令和2年度は、県大会は実施するのか (R3は県・全国)

○地区ごとに役割を割りふっても人事異動で職場が変わる可能性がある。そのため、令和2年度から令和3年度にかけては、人事異動に左右されないで人を固定できないか。ただ、役職が変わった場合は対応

地区でできないが・・・

○令和3年1月中旬開催の提言者研修会に向けた原稿等の〆切日を設定する。

○佐賀大会発表者の確認

- ・異動に伴って発表予定者の変更有⇒発表者か発表校？年度当初に協議？

○提言原稿作成上の視点の確認

- ・3C（継続性・協調性・関与性）の記述
- ・具体的な取組内容⇒成果と課題との整合性
- ・佐賀大会サブテーマの視点と主題設定理由のつながり
- ・提案性

○佐賀大会サブテーマ設定理由の図式化

○特別分科会Ⅱの提言内容の決定

キーワードから連想してみました

- ・ICT利活用から連想されること

小一中連携	小一小連携			
保護者の協力	学校間の連携	予算	利便性	
反転学習	授業での活用例	ICT利活用	職員研修	意識の変容
成果と課題	地域との連携	管理の仕方		
		学校と家庭		

- ・若手教員育成から連想されること

		OJT		
校内研究	集団育成力	中堅教員育成	学年主任会	
自主研修	教科指導力	若手教員育成	意識改革	働き方改革
センター研修	報・連・相	連携		
事務所主催研修会		横のつながり	縦のつながり	

☆全国公立学校教頭会研究大会 岡山大会 提言者研修会☆

* 提言者の原稿の締め切りは、11月25日 → チェックして全公教と顧問会に提出

* 提言者研修会要綱（冊子）の原稿は、1月初旬に印刷会社へ

* 研修会要綱の11ページが重要

・ 提言原稿検討の視点（3C・具体的な取組内容と成果と課題につながり・岡山のサブテーマの視点が主題設定の理由に含まれているか??・参会者が共感し自らの地域とつなげた理科大意識を持ったりすることのできる提言になっているか。）

・ 提言者研修会の話し合いを受けて、原稿の修正を行ってもらおう。 → 5月㍻切

（2・3・4月は忙しいため、提言者研修会を1月にする必要がある。）

* 「協議の柱」の決め方

・ 協議の柱について、各提言者に提出してもらおうが、岡山の研究部でも協議の柱の案を作成し、提言者研修会で吟味したうえで決定。

「～～ための教頭の役割」「～～に向けた教頭の関わり方」などの文末にする。

グループ討議の論点として分かりやすいものに。

* 司会は、岡山だけで行う。 → 水準を同じにする。どうしたら会が深まるかを考える。

・ 前年度のまとめが12月中に来なかったため、遅くなった。冊子ができたのが研修会の

2日前。（5ページ～の分を早めに準備する必要あり）

令和3年度 全国公立学校教頭会研究大会佐賀大会開催要項(案)

研究大会名 第63回 全国公立学校教頭会研究大会
 第61回 九州地区公立学校教頭会研究大会
 第53回 佐賀県公立学校教頭会研修大会

主催 全国公立学校教頭会・九州地区公立学校教頭会・佐賀県公立学校教頭会

後援予定 文部科学省・全国都道府県教育長協議会・佐賀県・佐賀市
 佐賀県教育委員会・佐賀市町教育長会連合会・佐賀市教育委員会
 福岡県教育委員会・長崎県教育委員会・熊本県教育委員会
 大分県教育委員会・宮崎県教育委員会
 鹿児島県教育委員会・沖縄県教育委員会
 全国連合小学校長会・全日本中学校長会
 佐賀県小学校長会・佐賀県中学校長会・佐賀県退職教頭会
 公益社団法人日本PTA全国協議会・佐賀県PTA連合会
 公益社団法人日本教育会

研究主題 未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり (第12期 全国統一研究主題 2年目)
 ～志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進～<サブテーマ>

開催場所 佐賀県 佐賀市

開催期日 令和3年8月3日(火)～5日(木) ※2日(月) 大会準備

会場 全体会場；佐賀市文化会館(大ホール・中ホール)
 分科会場；佐賀市文化会館(イベントホール) ホテル創世
 ホテルグランデはぐれ ホテルマリトピア 佐嘉神社記念館
 2日目本部；佐賀市文化会館

日 程	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
大会前日	大会会場設営・準備(業者委託) 大会実行委員会・各部打合せ 郷土文化紹介、開会行事リハーサル					昼食	準備	大会リハーサル 合同最終打合せ			準備	
1日目	大会準備		受付	分科会		郷土文化紹介	開会行事	シンポジウム			翌日の分科会仕様に会場設営	レセプション(2h)
2日目	大会準備	受付	分科会			昼食	分科会			翌日の全体会仕様に会場設営		
3日目	大会準備	受付	記念講演	閉会行事	大会会場撤収・片付け							

参加期待数 2400名(内佐賀県約260名)

郷土文化紹介 唐津くんち

シンポジスト 竹下 真由(起業家)、中島 潔(画家)
 坪田 信貴(坪田塾塾長) コーディネーター 富吉賢太郎(佐賀清和学園理事長 元佐賀新聞論説委員)

記念講演講師 緒方 孝市(前広島カーブ監督)

第63回全国公立学校教頭会研究大会佐賀大会
第61回九州地区公立学校教頭会研究大会佐賀大会
第53回佐賀県公立学校教頭会研究大会

I 大会要項

大会主題

「未来を生きる力を育む 魅力ある学校づくり」

副主題

「志を高くもち 豊かな心と未来を切り拓く力を育む 学校づくりの推進」

- 1 主催 全国公立学校教頭会 九州地区公立学校教頭会
- 2 主管 佐賀県公立学校教頭会
- 3 後援 文部科学省 全国都道府県教育長協議会
福岡県教育委員会 長崎県教育委員会 熊本県教育委員会
大分県教育委員会 鹿児島県教育委員会 宮崎県教育委員会
沖縄県教育委員会
佐賀県 佐賀県教育委員会 佐賀県市町教育長会連合会
佐賀市 佐賀市教育委員会
佐賀県市町教育委員会連合会 佐賀県市町教育長会連合会
全国連合小学校長会 全日本中学校長会
佐賀県小学校校長会 佐賀県中学校校長会 佐賀県退職教頭会
公益社団法人PTA全国協議会 佐賀県PTA連合会
公益社団法人日本教育会
- 4 会期 令和~~元~~³年8月3日(火)～5日(木)
- 5 開催地 佐賀県佐賀市
- 6 会場 (1) 全体会場
佐賀市文化会館 大ホール及び中ホール
(2) 分科会会場(10会場)
佐賀市内公共施設及びコンベンションセンター
- 7 参加者 2400名程度(平成31年度各都道府県公立学校教頭会教頭数により割当)
- 8 参加費 5,000円(昼食代 1,500円は別途)

II 日程概要

8月3日(火)		8月4日(水)		8月5日(木)	
9:00		8:30		8:30	
		9:00	受付	9:00	受付：佐賀市文化会館
		9:30	分科会 第1A分科会 マリトピア 3F 瑞兆 第1B分科会 マリトピア 1F アンダルシア 第2分科会 佐賀市文化会館 1F イベントホール 第3分科会 グランデはがくれ 1F ハーモニーホール 第4分科会 グランデはがくれ 2F フラワーホール 第5A分科会 マリターレ創世 4F グランデピアツツア①	9:30	研究のまとめ 記念講演 「組織を活かすマネジメント」 講演者：緒方 孝市氏
	11:30	郷土文化紹介 受付：佐賀市文化会館		11:30	閉会行事
12:00	閉会行事 閉会の言葉 挨拶 祝辞 閉会の言葉 基調提案	12:00	昼食	12:00	挨拶 次年度開催地紹介
13:00		13:00	分科会 第5B分科会 マリターレ創世 4F グランデピアツツア② 第6分科会 マリトピア 4F アンジェリーク 特I分科会 マリトピア 3F 秀峰 特II分科会 佐嘉神社記念館 3F 清明		
14:00	シンポジウム 「高い志 豊かな心 切り拓く未来」 シンポジスト 中島 潔氏 坪田 信貴氏 竹下 真由氏 コーディネーター 富吉 賢太郎氏				
16:30	※レセプション	16:30			

②全公教佐賀大会 関連業者

MARITOPA
MARITOPA SAGA
株式会社 マリトピア

営業部 係長
野中明美
Akemi Nonaka

**Lover's
Sanctuary**
恋人の聖地

マリトピアの個人情報は絶対守ります

〒840-0850 佐賀市新築東3丁目7-8
TEL: 0952-23-0178 FAX: 0952-26-5160
E-mail: akemi.nakashima@maritopia.com
http://www.maritopia.com



HOTEL MARITAL SOUSEI

営業課 宴会営業

大石 徹
Toru Oishi

ホテルマリタール創世 佐賀
〒840-0804 佐賀市神野東2-5-15
TEL 0952-33-5511 (代表)
FAX 0952-32-7256
E-mail: info@hotelsousei.jp

佐賀県マイスター認定事業所
株式会社 **アサヒエ芸社**
屋外広告全般・イベント・ネオン

屋外広告士・一級技能士
代理取締役 **柿原 誠**
Makoto Kakihara

〒840-0814 佐賀県佐賀市成車町1-15
TEL(0952)23-8868/FAX(0952)23-8018
☎ Phone 090-1518-2808
HP http://www.bunbun.ne.jp/~asahi-k/
E-mail asahi-k@po.bunbun.ne.jp
佐賀県屋外広告業登録(1)第439号

公益財団法人佐賀市文化振興財団

佐賀市文化会館
管理課 主査

中谷 摂子

E-mail s-nakatani@kyf.biglobe.ne.jp

〒849-0923
佐賀市日の出1丁目21-10
Phone: 0952-32-3000
Fax : 0952-32-3738
URL http://www.shinpoo.jp

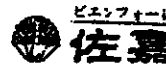


難西日本企画サービス

佐賀支店
次長

岩村 雅之

助言先 〒849-0923 佐賀市日の出1-21-10 佐賀市文化会館内
TEL 0952-32-2822 FAX 0952-32-2891
携帯: 080-6412-8043
E-mail: iwamura@nksnet.co.jp
佐賀支店 〒849-0923 佐賀市日の出1-19-22
TEL 0952-20-1415 FAX 0952-20-1416
URL: http://www.nksnet.co.jp/



佐嘉神社記念館

宮崎 温子
MIYAZAKI HARUKO

〒840-0831 佐賀市松原2丁目10番43号
TEL (0952) 24-4122
FAX (0952) 22-4643
e-mail: kinenkan@segajinija.jp
http://www.segajinija.jp

水田さん



▲2008年フィナンシャルパートナー(DFP)です

佐賀支店
次長

足立 雄一

株式会社近畿日本ツーリスト九州

〒840-0816 佐賀市駅前本町5-1
日進ビル6階
TEL 0952-28-4991 FAX 0952-28-2885
携帯電話: 080-8388-9198
E-mail: adaoh@902280@kntk.co.jp
http://www.kntk.co.jp

近畿日本ツーリスト九州とクラブツーリズムはKNT-C Tホールディングスのグループ会社です。



福吉川紙舎印刷

営業部 部長

園田 政則

携帯: 080-3968-9391
E-mail: m-sonoda@furukawa-t-p.co.jp

〒849-0936 佐賀市鍋島町大字森田881番地
TEL 0952-34-5345 FAX 0952-34-5335